

自己評価結果公表シート（令和4年度）

学校法人和泉マリア学園
和泉カトリック幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味を持ち、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように保育者との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、少人数クラスを活かして縦割活動も保育に充分取り入れ、年長児への憧れや年少児へのいたわりの心などをそだて、自然に友達と密接にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。更に少人数を活かし「すべての職員が園のすべての子どもたちを知っている」ことに心を留め、カトリック的教育環境のもとで幼児の円満な心身の成長発達を促進し、一人ひとりが神から愛されている大切な存在であることに気付かせ、お互いを大切に作る心を育てるように導く。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って、日々の保育日誌を記録する上で、幼児理解、環境の構成や他の保育者との関わりなどを振り返り、自己点検・自己評価を実施することによって教職員自らが客観的に自らの保育指導を顧み、自園を見る目を養い、個々の保護者とその子どもたちのニーズを確認し、教育内容の向上と改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目と取組状況

評価項目	取組状況
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解を語る。	園の教育理念と幼稚園教育要領の理解を全教職員で更に積極的に推進し、それを現実の保育に沿わせるように具体的な場面について学年別の展開についても話し合いを行っている。
幼稚園の状況を踏まえて中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼稚園に求められている社会的なニーズにも対応してきている。本年度から施設型給付幼稚園に移行し、安定した状態の中で子どもたち・保護者と共に教育できるように目指している。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	進んで研修会に参加することによって研鑽を重ね、日々のミーティングの時間に、その日の子ども一人一人の姿・動き・発見について自由闊達に情報交換を行い、特に、子どもたちが毎日の園生

	活を楽しみ、喜んで登園できるように取り組んでいる。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応をはかる。	毎日の保護者との連絡帳を通して、必要に応じて保護者との情報交換を密にし、また、本園の特徴でもあるのびのびクラスやその他の機会に保護者達が園で昼食を共にしながら交流を計りつつ、そこでの子育ての喜びや悩み、園への気付きなどの声を吸い上げ、更にお誕生会後の、園長と出席保護者とのお茶を囲んでの懇談会をもとに、必要なものについては園の考え方を示し、改善すべき点については、取り入れるようにしている。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育者一人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に日々の保育日誌及び連絡帳を通じての自己点検、自己評価に取り組み、更に、職員の毎日のミーティングのとき より具体的に個々の情報を交換し教示し合い、保育者としてお互いに高め合うよう努めている様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育・保育を振り返り、更に充実した実践が出来るように努力を積み重ねていくように努力している。施設面では環境整備、特に本年度もコロナ禍に対しての3密を初め、徹底的な保育終了後の保育室・こどもたちの絵本・遊び道具などの消毒を図るとともに、園庭の樹木、花壇の四季の花など身近な自然とのふれ合い、又、トイレの徹底的清掃などに心を配ると共に遊具・園具の定期的点検を行い、子どもたちが安心・安全に遊べる環境になるように努力しており、概ね目標を達成できた。

5.今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
地域に根ざし、地域の必要に応じられる園作り	保護者とは毎日の連絡帳をはじめ、常に連絡を密にし、地域の現状やニーズを的確にとらえるように心を配り、早朝預りや延長保育、園庭開放・親子登園、ホームページなどの充実に配慮し、地域家庭の子育ての一助となれるような園作りに務める。 又、園近くに存在する社会福祉法人のデイケア での年長児たちと施設利用者たちとの交流を更に充実していくように努める（4年度はコロナ禍のため実施なし）

特別支援教育	特別支援を必要とする幼児一人ひとりに対応した個別の指導計画を作成し、保育者同士で個々の子どもに適した教材や伝達方法について分かち合い、作成し、それを活かし、又、積極的に関係する研修会に参加し、医療・福祉の関係機関及び保護者との連携を密にしていくことを徹底してゆく。
卒園後も子どもたちの心の拠りどころとなれるような園作り	激しく変革していく社会の中での家庭の崩壊、家族としてのあり方などの変革に心を留め、子どもたちがいつもアットホームな安定した環境の中で、保育者や友達と心豊かに成長してゆけるように配慮し、園を築立った後も必要な時、いつでも立ち寄れるような園作りを更に目指す。

6、学校関係者の評価

毎回の誕生会での保護者との懇談、事あるごとの保護者との対話などを通して、積極的・建設的な意見を聴取している。又、種々の形で就労している今の社会状態を鑑み、令和2年度より従来のような聖母の会という保護者会を廃止したが、連絡帳等より多くの幅広い保護者からの意見・考えを受入れ、取り上げている。年長児クラスの経験ある保護者を学校関係評価委員として依頼し、感想等聴取し、概ね良好な運営をされ、また、学校評価にも取り組まれているという意見を頂いた。

学校関係者 評価委員 名簿

令和4年度 年長児保護者

田中 瑞穂 池野 一緋 山口 景子